

ワーキンググループ開催実績

資料 1

※ < >内：親会議からの御出席メンバー（WG構成員除く）

展示・学習等WG

第1回 9月29日

<松岡委員、尾崎オブザーバー、菊池オブザーバー>

1. 構成員紹介
2. ワーキンググループの進め方について
3. 国立公文書館における展示機能、学習機能に係る現状及び今後の取組等について（国立公文書館説明）
4. 意見交換

第2回 11月18日

<老川座長、内田委員、松岡委員、尾崎オブザーバー>

1. 情報交流機能に係る現状及び今後の取組等について（国立公文書館説明）
2. 意見交換

保存・利用支援等WG

第1回 8月30日

<井上委員、内田委員、松岡委員、尾崎オブザーバー、菊池オブザーバー>

1. 構成員紹介
2. ワーキンググループの進め方について
3. 修復機能、デジタルアーカイブ機能に係る現状及び今後の取組等について（国立公文書館説明）
4. 意見交換

第2回 10月18日

<内田委員、松岡委員、菊池オブザーバー>

1. 保存機能、調査・研究支援機能に係る現状及び今後の取組等について（国立公文書館説明）
2. 意見交換

＜施設整備に関わる機能横断的な考え方＞

※ 親会議におけるこれまでの御議論を踏まえ、両WGに関わる横断的な考え方として、事務局より御提示しているもの。

- 保存、修復、デジタル化等に係る業務・施設など、国立公文書館の「裏側」を利用者に見せることのできる機能を備えた施設とする。

【施設面における必要な対応（例）】見学者用の動線の確保。

- デジタル化を始めとする将来的な変化、新たなニーズに柔軟に対応できる施設とする。

【施設面における必要な対応（例）】・固定的な壁による仕切りは最小限に留め、可動式の壁やパーティションを活用したニーズに応じた柔軟な利用ができるようにする。

・例えば閲覧室について、国立公文書館に来館することによるメリットを感じられるようなサービス提供（アーキビストによる相談対応等）を想定した空間とする。

- 我が国全体の歴史公文書等の保存・利用の取組推進の拠点としての役割の強化を念頭に、そのために必要な施設を整備する。

【施設面における必要な対応（例）】・保存・修復の技術等に係る研究施設などの整備。

・災害等発生時における復旧・修復支援に備えた施設整備。